

●2010年10月 総覧 モバイル版 過去記事 検索

- 2010/10/31 世界平和指数:日本3位, ネパールは82位
- 2010/10/30 プラチャンダ委員会も, 屋上屋か?
- 2010/10/29 首相選挙, 14回目も失敗
- 2010/10/28 ロイ, 国家反逆罪で逮捕か?
- 2010/10/26 首相選挙, 13回目も失敗
- 2010/10/23 マオイストの中国詣で
- 2010/10/22 司法制度もアメリカがお手本
- 2010/10/21 州は一院制:プラチャンダ委員長
- 2010/10/20 プラチャンダ議長, 憲法起草「7人委員会」委員長就任
- 2010/10/17 マオイスト, 印マオイスト訓練か?
- 2010/10/15 ブログ引っ越し
- 2010/10/14 日本陸軍のヒマラヤ利用
- 2010/10/14 プラチャンダ党首に説教する米国務省
- 2010/10/11 中国のメール検閲
- 2010/10/10 首相選12回目も失敗
- 2010/10/09 ダサインと長崎くんち
- 2010/10/08 首相選11回目失敗と, 教訓を垂れるアメリカ
- 2010/10/07 首相選10回目も失敗, 次は7日午後
- 2010/10/06 中国のネパール介入拡大
- 2010/10/02 MSブログ廃止、次はホットメールか?
- 2010/10/01 第9回首相選挙も失敗

10月 2010のアーカイブ

世界平和指数：日本3位，ネパールは82位

谷川昌幸(C)

世界平和指数(Global Peace Index, GPI)は、平和を指数化し、世界諸国を比較するもので、オーストラリアのSteve Killeleaによって考案された。次の23の項目について評価し、総合点を算出する。

●評価項目

内外の紛争，紛争での死者(外国)，紛争での死者(国内)，組織的紛争，近隣諸国との関係，犯罪，難民・避難民，人権，テロ，自殺，暴力犯罪，暴力的デモ，投獄者数，警察・治安機関，軍事費，軍人数，通常兵器の輸入，通常兵器の輸出，国連PKO拠出額，重兵器，軽兵器，軍事能力。

■2010年度GPI (全149カ国)

1. ニュージーランド
2. アイスランド
3. 日本
4. オーストリア
5. ノルウェー
31. イギリス
32. フランス
80. 中国
82. ネパール
85. アメリカ
128. インド
149. イラク

この世界平和指数では、日本は堂々の第3位。孤独死や自殺，交通事故死も多いのに、ちょっと面はゆいが、項目ごとに評価し、指数化するとこうなるのだろう。

この世界3位という荣誉ある評価は、いうまでもなく憲法第9条のおかげである。健康と平和は、無くなってはじめてその有り難さが分かる。世界を見ると、日本のような平和はむしろ例外的なことなのだ。

それなのに、民主党や自民党の面々は9条の悪口を言いたい放題、すでにマスコミからは9条擁護派はほぼ駆逐され、テレビ番組は猪突猛進，青年将校代議士たちの騒々しい大言壮語の狂宴の場と化している。まるで開戦前夜のようなのだ。

その点，この世界平和指数は正直だ。勇ましい青年将校代議士たちが範と仰ぐアメリカは85位，完全な落第点だ。なかなかやるではないか。こんな指数をこそ，国連はもっと重視し，85位のアメリカや128位のインド，あるいは80位の中国などを批判し，軍縮に向かわせるべきだろう。

われらがネパールは，82位。アメリカやインドよりは上だが，決して平和な国とはいえない。もしネパールが本気で平和を願うなら，いまこそ日本国憲法第9条を見習い，思い切って軍隊を放棄し，非武装永世中立国となるべきだ。ネパールのような国が軍隊などもっていても，何の役にも立たない。クーデターの不安と重税に苦しめられるだけだ。

新憲法制定の今がチャンスだ。軍隊を全廃し、世界平和指数第1位を目指そうではないか。

作成者: Tanigawa

2010/10/31 22:09

カテゴリー: [平和](#)

タグ: [非武装](#), [GPI](#), [9条](#), [平和指数](#), [永世中立](#)

プラチャンダ委員会も、屋上屋か？

谷川昌幸(C)

プラチャンダ氏を委員長とする憲法問題特別委員会が10月11日に設置され、大いに期待したが、これもはや機能不全、屋上屋のようだ。

10月30日の会合では、司法制度の基本方針が決められなかった。裁判官の任免や異動を決める独立司法委員会の長を誰にするかでもめているという。

憲法に関する未解決の論点は、驚くなかれ、まだ220もあるという。これでは、屋根に屋根をいくら重ねてみても、新憲法はできそうにもない。それでも、UNMINは来年1月15日で去っていくのだろうか？

作成者: Tanigawa

2010/10/30 22:24

カテゴリー: [司法](#), [憲法](#)

タグ: [プラチャンダ](#), [制憲議会](#), [司法制度](#)

首相選挙，14回目も失敗

谷川昌幸(C)

10月29日，14回目の首相選挙が行われたが，唯一の立候補者， kongress党のポウデル氏は，過半数にはるかに及ばず，またしても選出されなかった。

■ラムチャンドラ・ポウデル： 賛成96，反対2，白票40。出席者138。制憲議会定数601。

次の15回目は，11月1日。これが世界新であることは，もはや疑いの余地はない。スゴイ，まったくスゴイ。

ここで勘違いしてはならないが，いうまでもなく悪いのは，ひるむことなく立候補し続けているポウデル氏ではなく，立候補者も出せないくせに場外で騒いでいる女々しいマオイストとUML。文句があるなら，ちゃんと候補者を出し，議会で正々堂々と闘うべきだ。それが議会政治の常道だ。

この調子では，もうしばらくすると，毎日が首相選挙となるかもしれない。結局，民主主義とはその程度のものなのだ。それが分かり始めただけでも，大収穫だ。

毎日が首相選挙ともなれば，必ずや政治的英知が生まれてくる。それまでは，倦むことなく，徹底的に民主主義につきあうべきだ。People's Powerで民主主義を生み出したのだから。

作成者: Tanigawa

2010/10/29 22:17

カテゴリー: [マオイスト](#), [政党](#), [民主主義](#), [議会](#)

タグ: [kongress](#), [首相](#), [議会政治](#), [UML](#)

ロイ、国家反逆罪で逮捕か？

谷川昌幸(C)

われらがロイが、国家反逆罪で逮捕されるかもしれない。ロイは、カシミールの集会で――

- ・カシミール住民に対する残虐な弾圧
- ・カシミール知識人の追放
- ・ダリット兵士殺害
- ・カシミール弾圧費用を負担させられているインド貧民
- ・警察国家で生きるインド庶民

などについて語った。これが国家反逆罪に当たるというのだ。(Arundhati Roy, "Pity the nation that has to silence its writers: Kashmir was never integral part of India", The Hindu, 26 oct.2010)

国家反逆罪は、日本の刑法でいえば内乱罪――

第2章 内乱に関する罪

第77条 国の統治機構を破壊し、又はその領土において国権を排除して権力を行使し、その他憲法の定める統治の基本秩序を壊乱することを目的として暴動をした者は、内乱の罪とし、次の区別に従って処断する。

1. 首謀者は、死刑又は無期禁錮に処する。
2. 謀議に参加し、又は群衆を指揮した者は無期又は3年以上の禁錮に処し、その他諸般の職務に従事した者は1年以上10年以下の禁錮に処する。
3. 付和随行し、その他単に暴動に参加した者は、3年以下の禁錮に処する。

こんな恐ろしい内乱罪に問われる事態にないわれわれ日本人は幸せだ。でも、内乱罪はいまでもちゃんと生きていることを忘れてはならないだろう。

それにしても、ロイの文章は、危険なまでに魅力的だ。この危機の瀬戸際にあってさえ！

作成者: Tanigawa
2010/10/28 16:52

カテゴリー: [インド](#), [人権](#), [民族](#)
タグ: [ロイ](#), [カシミール](#), [警察国家](#)

首相選挙、13回目も失敗

谷川昌幸(C)

ダサイン明けの10月26日、13回目の首相選挙が行われたが、唯一の立候補者、 कांग्रेस党のポウデル氏は過半数にはるかに及ばず、またまた選出されなかった。次回14回目は10月29日の予定。

■ラムチャンドラ・ポウデル： 賛成98， 反対2， 白票44。出席者144人。制憲議会定数601。

首相選挙13回は、世界新にまちがいない。とにかくスゴイ。こんな大記録を更新し続けているのだから、必ずや民主主義が成熟し、すばらしい解決策が見いだされるにちがいない。そう期待している。



▼ラムチャンドラ・ポウデル(nepalnews.com)



作成者: Tanigawa
2010/10/26 23:27

カテゴリー: [政治](#), [議会](#)
タグ: [コングレス](#), [首相](#), [制憲議会](#)

マオイストの中国詣で

谷川昌幸(C)

ネパール・マオイストが中国詣でをしている。

10月21日には、マオイスト軍幹部11人からなる訪中団が、9日間の「私的訪中」から帰国した。軍訪中団は、B. プン常任委員(軍担当)と妻OG. マガル, J. シャルマ議員(前副司令官), CP. シャルマ副司令官 (PLA報道官)らからなり、ラサ経由で北京に行き、中国共産党幹部らと会見してきた。

その軍訪中団の帰国翌日(22日)、今度はプラチャンダ議長と妻シタ・ダハル, KB. マハラ常任委員(外務担当)らが4日間の公式訪中に出発した。上海万博に出席し、中国共産党幹部や政府高官らと会見する予定という。

ネパール・マオイストがこのように次々と訪中するのは、なぜか？ ジャー副大統領も訪中したので、マオイストだけではないが、それでもやはりマオイストの中国詣では目立つ。

もともとネパール・マオイストは、毛沢東原理主義であり、文革以後の鄧小平路線(社会主義市場経済)を修正主義と激しく非難していた。現在のインド・マオイストと同じ立場である。

これに対し、中国はネパール・マオイストを非難し、「マオイスト」「マオイズム」を使用するな、とさえ要求していた。犬猿の仲だったといつてよい。

ところが、ネパール・マオイストは制憲議会選挙で大勝し、体制内に入り、アッというまに中国以上の「修正主義者」になってしまった。ネパール・マオイストの幹部たち、議員先生方は、資本主義粉碎など、もはや夢にも思っていないであろう。そのネパール修正主義マオイストが、中国修正主義マオイストに急接近しているのだ。

それはそれで結構なことだが、これに心穏やかでないのが、インド政府。ネ中接近を防止するため、あらゆる手段でネパール・マオイストへの圧力をますます強化していくのではないだろうか。

作成者: Tanigawa
2010/10/23 21:06

カテゴリー: [インド](#), [マオイスト](#), [中国](#)
タグ: [マオイスト](#), [鄧小平](#), [原理主義](#), [修正主義](#)

司法制度もアメリカがお手本

谷川昌幸(C)

昨日、プラチャンダ議長は偉いと誉めたのに、「7人委員会」の下にはすでに部会があったらしく、そこでは司法制度

について決定できなかったという。

とにかく、ネパールでは、やたらと委員会、作業部会等々ができ、それぞれの段階でカネと時間が際限なく浪費される。民主的というよりは、封建的権力多元性。こんなものを粉砕するため、一種の委任独裁としてプラチャンダ委員長が選出されたと思ったが、どうやらそうではなかったらしい。

と、そんなことを思いながら、チラッと横を見ると、そこには米最高裁礼賛広告が出ている。「ネパール司法はダメだね、アメリカ最高裁を見習いなさい」というわけだ。

いかにもアメリカらしく、いかにもネパールらしい。



▼司法制度合意失敗記事と米最高裁宣伝の対比が鮮やか

eKantipur, Oct.21

作成者: Tanigawa

2010/10/22 15:12

カテゴリー: [司法](#)

タグ: [プラチャンダ](#), [委任独裁](#), [封建制](#), [憲法](#)

州は一院制：プラチャンダ委員長

谷川昌幸(C)

憲法起草「7人委員会」プラチャンダ委員長が、州議会は一院制とする、と速断した。さすがだ。

しかし、実際には、これはたいした問題ではない。州を二院制なんかにしたら、頭でっかちの金食い虫、不効率でどうにもならない。州議会は一院制が常識だろう。

これに対し、国会を一院にするか二院にするかは大問題。意見は割れている。

NC,UML=二院制 vs マオイスト=一院制

連邦制なら、当然、二院制だろう。マオイストは現在の制憲議会でたまたま多数派となったので、一院制を主張しているにすぎない。マオイスト議長のプラチャンダ委員長が、党内意見を抑え、「二院制にする」と速断できれば、あつぱれだが、はたしてどうか。

そこで提案だが、もし二院制にするのなら、いっそのこと上院は女性院、下院は男性院（逆でもよい）としてしまっ
はいかがか。こんな議会ができれば、画期的、世界がアッと驚くだろう。



作成者: Tanigawa

2010/10/21 14:30

カテゴリー: [憲法](#), [民主主義](#)

タグ: [プラチャンダ](#), [連邦制](#), [議会](#)

プラチャンダ議長、憲法起草「7人委員会」委員長就任

谷川昌幸(C)

制憲議会ネムワン議長の提唱により諸政党が10月11日、高レベル「7人委員会（7 member taskforce）」を組織し、13日プラチャンダ議長を委員長に指名、憲法制定作業の促進を図ることになった。

■7人委員会

- 委員長: プラチャンダ (UCPN-M議長)
- 委員: カナル (CPN-UML議長)
- 委員: RC. ポウデル (NC議員会長, 副党首)
- 委員: NM. ビジュツチェ (労農党党首)
- 委員: ウペンドラ・ヤダブ (MJF党首)
- 委員: プレム・シン (民主党党首, 法務大臣)
- 委員: ルクミニ・チョウダリ (制憲議会議員)

(Rising Nepal, Oct.11)

憲法草案作成については、分野別専門委員会が昨年、委員会草案を作成し議論してきたが、いまのところ合意にはいたっていない。予定では、分

野別専門委員会の報告書提出締切10月17日、「憲法委員会（CC）」による憲法草案作成締切11月17日である。

この草案制定作業が大幅に遅れていたため、「7人委員会」が調査し、報告書を10月24日までに提出することになったのである。

7人委員会は10月19日、争点11のうち9つで合意に達した、と発表した。残るのは、統治制度と選挙制度だという。一見、順調そうだが、実際にはそうでもない。

■大統領制か議院内閣制か？

マオイスト：大統領が統治する大統領制

NC,UML：議院内閣制。大統領は儀礼的元首

これは大問題である。選挙制度については報道なし。また、はしごを外され、メンツをつぶされた憲法委員会（CC）のニランバ・アチャルヤ議長は、政党有力者だけで決めた7人委員会には憲法上の権限はないと批判しているし、マオイストのアミキ・シュレチャン常任委員は、プラチャンダ議長の7人委員会委員長就任のことはまったく聞いていない、と不快感を露わにしている。

制憲過程を支援してきたUNMINの任期は2011年1月15日までであり、ネパール諸政党はいよいよ追い詰められてきた。期限までに、憲法制定と人民解放軍（PLA）問題の解決に目途をつけなければならない。

ネパールの政治家たちは、いつもてんでんばらばら、勝手なことを言い張りまとまりがないように見えるが、イザとなれば、結構うまく話をまとめる。落としどころを心得ている。7人委員会の設置にしても、たしかにボス談合、非民主的ではあるが、マオイストのプラチャンダ議長を委員長に据えたところなど、なかなかやるな、と感心する。

憲法制定やPLA問題解決には、まだまだ難問山積だが、最後の土壇場で、何とか決着をつけるのではないだろうか？

* eKantipur, Oct.13,19; Nepalnews.com,Oct.15,19

作成者: Tanigawa

2010/10/20 12:34

カテゴリー: [憲法](#)

タグ: [議院内閣制](#), [制憲議会](#), [大統領](#), [憲法](#)

マオイスト、印マオイスト訓練か？

谷川昌幸(C)

インド政府が10月11日、インド・マオイストがネパールで訓練を受けている、と警告した。これまでのところ、マオイストは国際連帯を唱え、「南アジア・マオイスト諸党・諸組織協力委員会(CCOMPOSA: Coordination Committee of Maoist Parties and Organizations of South Asia)」のような組織をつくっているが、実際には他国マオイストとはあまり仲がよくなかった。イデオロギー政党の宿命であろう。

ところが、もしインド内務省発表が事実だとすると、インドでもマオイストが勢力を拡大し、すでに最大勢力となっているネパール・マオイストに接近し始めたことになる。

もちろん、ネパール・マオイストのプラチャンダ議長やパサン（NK.プン）PLA総司令はインド内務省発表は謀略だと反論しており、まだ事実かどうか分からないが、印ネは地続きであり、かつてはネパール・マオイストがインドを闘争拠点としていたことも歴史的事実だから、印ネ・マオイストが連帯強化に向かい始めたとしても不思議ではない。

もしインド内務省が警告するように、印マオイストがネパール・マオイストに接近し、印ネ・マオイスト共闘が成立すると、これは印ネ両国ばかりか、米中にとっても一大事。早晚、介入がはじまるだろう。

インド・マオイストについては、敬愛するA. ロイが、圧倒的に面白い。

Arundhati Roy, Maoism: The Trickle-down Revolution, *Outlook India*

, Sep 20, 2010

これは長い評論だが、機会があれば、紹介したい。

▼ チトワン・ジャングル内の印ネ国境線(Google)



作成者: Tanigawa
2010/10/17 12:59

カテゴリー: [インド](#), [マオイスト](#)
タグ: [インド](#), [プラチャンダ](#), [マオイスト](#), [ロイ](#)

ブログ引越

谷川昌幸(C)

MSブログ廃止のため、やむなくこちらに引っ越してきた。アドレスは、すぐ確保しておいたので、nepalreviewがそのまま使える。<http://nepalreview.wordpress.com/>

まだ使用方法がよく分からないので、見ばえのしないブログになってしまうが、やむをえない。いずれ、自前のサーバーに設置せざるをえないだろう。

ところで、今日は、近所の若宮稲荷神社に無形民俗文化財「竹ン芸」を観に行った。子狐、男狐、女狐が、竹の上で芸を披露し、稲荷さんに奉納する。長崎らしい由緒ある祭りだが、こうした伝統行事の維持は、どこでも難しくなっているようだ。

伝統的共同体は、たしかに息苦しく住みにくい。いったん近代的自由を手にする、もはやそこに戻ることはほぼ不可能だ。民主党が「新しい公共」を唱えているが、まず無理であろう。

近代人は、砂漠の砂のように自由で、無味乾燥な世界で生きざるをえない。そして、ときが来れば孤独死を迎えるのだ。

▼若宮神社「竹ン芸」



作成者: Tanigawa
2010/10/15 20:42

カテゴリー: [文化](#), [社会](#)
タグ: [共同体](#)

日本陸軍のヒマラヤ利用

谷川昌幸(C)

日本はUNMINに陸上自衛隊員6名を派遣している。外国では、Japanese Armyなので、こういう場合は国際基準に従い「日本陸軍」と表記するのが正しい。

そもそも「自衛隊」は憲法違反であるし、ましてや海外派兵はゆるされるわけがない。その違憲のネパール派兵は、いうまでもなく本格的海外派兵の露払いであり、派兵宣伝が最大の目的である。

この観点からすれば、以前に何度も指摘したように、ネパールは絶好の派遣先である。ほとんど危険はないし、ヒマラヤ、ゾウ、サイ、あるいは寺院、村と素朴な農民など、被写体に事欠かない。すでにネパールは日本陸軍海外派兵の宣伝にさんざん利用されてきた。

今回は、霊峰マチャプチャレである。登山をも拒絶してきた聖なる山が、違憲派兵の宣伝に利用されてよいのだろうか？



防衛省HP

作成者: Tanigawa
2010/10/14 19:52

カテゴリ: [平和](#)

プラチャンダ党首に説教する米國務省

谷川昌幸(C)

アメリカ国務省の民主主義宣伝が、ますますエスカレートしている。記事連動広告だろうが、eKantipurの一面上段中央右に堂々と出てくる。

10月14日付では、マオイストのプラチャンダ党首が憲法起草調整会議議長に選出されたという記事の、プラチャンダ党首喜色満面写真の横に、アメリカ国務省が「選挙だけではダメ」という説教広告を出している。

いくら広告料が高いとはいえ、一国の代表的メディアともあろうものが、このようなことをしてよいのだろうか？ 「ネパール共産党毛沢東主義派」という立派な党名をもつ大政党の党首が、自国メディアに、こんな扱いをされ、平気なのだろうか？

これが、アメリカが宣伝する民主主義社会の言論・表現の自由なのだろうか？ 表現の自由は金持ちのためのものだろうか？ 民族文化の旗手にしてナショナリストのネパール知識人たちは、どう考えているのだろうか？



eKantipur, Oct14

作成者: Tanigawa

2010/10/14 04:59

カテゴリー: [民主主義](#)

中国のメール検閲

谷川昌幸(C)

中国の劉曉波氏がノーベル平和賞を受賞された。それはお目出たいが、驚き、ゾッとしたのが、中国政府による情報遮断。

受賞報道のところで、テレビ画面がパッと消え、暗くなったのはご愛敬。ネット記事が削除され、検索もできないのも、まあ想定内の範囲内。

一番驚いたのは、電子メール検閲。メールに「劉曉波」と書くと、中国では送信できない。つまり、中国政府がメールをすべて検閲しているのだ。IT技術者には常識かもしれないが、これは実に恐ろしいことである。

私も、すべてのメールは誰かに見られていることを想定し、メールを使用している。大学であれば、大学の誰かが、私のメールを読んでいるかもしれない。そう警戒しつつも、毎日のことなので、ついすっかりし、丸秘メールを出してしまうことが少なくない。

そして、もし大学や企業、あるいは中国政府にできることなら、某超大国の某機関が全世界の全メールを検閲することも、当然できるはずだ。全世界は某情報機関に監視され、検閲されている。そう考えるべきだろう。

ネットが世界全体主義を可能にする。これからは、自由になりたければ、ヒマラヤ山中に隠遁する以外に方法はなくなるであろう。

作成者: Tanigawa

2010/10/11 22:11

カテゴリー: [情報 IT](#)

首相選12回目も失敗

谷川昌幸(C)

10日、12回目の首相選挙が実施されたが、立候補はまたしても kongress のラムチャンドラ・ポウデル副党首のみ。得票は過半数に遠く及ばず、選出されなかった。次は10月26日 (nepalnewscomでは27日)の予定。

■ポウデル:賛成89, 反対1, 棄権29。出席議員119, 議会議員定数601。

首相選挙にもかかわらず、議員出席率はついに19%にまで落ちた。もはやこれはギネスものだ。不屈のポウデル候補には輝かしい民主主義勲章が授与されるだろう。

で、本当に悪いのは、どちらなの？ 首相選に立候補し続けるポウデル氏か、それともとりやめてしまったプラチャンダ氏やカナル氏か？ 「国民代表」として出席し、賛成か反対か棄権の意思表示をした議員たちが、それとも欠席し遊んでいた議員たちか？



(KOL, Oct10)

12回落選のポウデル候補と、1回で当選のオバマ大統領。こんな広告を堂々と出すアメリカはさすがにスゴイ。民主主義総本家の自信に打ち満ちている。

作成者: Tanigawa
2010/10/10 22:12

カテゴリー: [民主主義](#)

ダサインと長崎くんち

谷川昌幸 (C)

1. ダサインと動物供犠の神聖

10月8日、ネパールではダサイン初日のChatasthapanaが祝われている。私は一度もネパールでダサインを体験していないが、最大のお祭りであり、日常と非日常が交錯し、興味深いことがあちこちで見られるのである。

たとえば、動物供犠。ダサイン8日目のAsthamiや9日目のNavamiでは、あちこちの女神様に、ニワトリ、山羊、水牛などが犠牲として捧げられる。女神様たちは、血だらけになりながら、動物供犠を喜び、生命を捧げた動物たちを聖化し、人々にその肉を下賜される。人々は、その聖なる肉を持ち帰り、皆で食することにより、自分たちが他の生命の犠牲の上に生かされていることの厳粛さを改めて心に刻み、神々と動物たちに感謝するのだ。

この動物供犠には何一つ非難されるべき点はない。動物たちは、屠殺場で機械的に殺され、肉片に分解され、商品として販売され、縁もゆかりもない消費者に食われるよりは、はるかに幸せであろう。

ところが、動物愛護団体が、今年も、この神聖な動物供犠にイチャモンをつけている。ベジタリアン(菜食主義者)だけの団体なら、論理一貫し、耳を傾けもするが、ほとんどの動物愛護団体はそうではない。肉を食いつつ、動物愛護を叫ぶ。偽善者め！

われわれは、人間の肉を食い血を飲むことをもって神聖とする慣習ですら信仰として認めている。それに比べるなら、動物の血(生命)を女神様に捧げ、聖化していただいた肉を持ち帰り、動物たちに感謝しつつそれを食することが、なぜ動

物の権利を侵害することになるのか？ なぜ残酷だといって非難されなければならないのか？

ベジタリアンが動物供犠に反対するのは、よく分かる。が、肉食人間が動物供犠に反対するのは、軽薄きわまりない偽善である。

2. 長崎くんちと伝統の継承

と、そんなことをつらつら考えながら、今日は長崎諏訪神社に行き、くんち（おくんち）を見学してきた。

この諏訪神社も、政治に翻弄された神社である。建立は16世紀半だが、大村氏がキリシタン大名になると、キリシタンにより焼き払われてしまった。ところが、江戸時代になると、今度はキリシタンが禁止され、諏訪神社は再建され、キリシタン鎮圧に加担することになる。くんちも、キリシタンあぶりだしに利用されたい。

しかし、それはそれとして、諏訪神社くんちは、江戸時代以来の長崎・地域社会の多様な伝統を継承しており、たいへん興味深い。

くんちでは、59の町が7組に分かれ、だしものを神社に奉納する。これは、各町にとって、おそらくたいへんな負担であろう。しかし、7年ごとに、だしものを奉納するという伝統を継承することにより地域社会の結束が維持・強化されてきたことはまちがいない。長崎くんちは、文化や地域社会の在り方を考えるための好個の事例である。

また、長崎くんちでは、それぞれの町が伝統を守りつつも、たとえば新体操のような新しい試みをいくつかつけ加えていた。伝統は墨守ではなく改良によって維持される。これは保守主義の大原則である。長崎くんちは、政治学の教材にもなりそうである。

近代合理主義に徹するなら、ダサインや長崎くんちのような祭は有害無用だ。しかし、人間は合理的計算だけで生きるものではない。いやむしろ人間は、合理的計算よりも、祭のような非日常的不合理——文化——のために生きるのではないだろうか。



龍踊(籠町)



御座船(築町)



竜宮船(東浜町)



南蛮船(銅座町)



庭先回り（新大工町商店街）

作成者: Tanigawa

2010/10/09 21:58

カテゴリ: [文化](#)

首相選 1 1 回目失敗と、教訓を垂れるアメリカ

谷川昌幸(C)

1. 首相選世界記録更新

ネパール首相選挙は、7日実施の11回目も失敗、世界新を更新した。立候補は kongress のラムチャンドラ・ポウデル副党首だけ。

■ポウデル：賛成104，反対1，棄権40。出席議員総数145，立法議会定数601

出席議員は、わずか145人、ついに24%となってしまった。これが、世界最先端の包摂参加民主主義の実態なのだ。バカバカしい。次は10月26日の予定。

しかし、昨日も述べたように、ネパールの人々、特にメディアはこのバカバカしさをバカにしてはならない。このバカバカしさを直視し、耐え、自省に導くのが民主主義なのだ。

そして、ここで偉大なのは、11回の惨敗にもめげず、憲法と議会運営法に則り、堂々と立候補を続け、絶対に降りないと宣言しているポウデル副党首だ。これこそ「法の支配」である。

このポウデル副党首の偉大に比べ、マオイストとUMLはあまりにも卑屈だ。自分たちの都合が悪くなったので議長大権により、あるいは議会運営法を変え、ポウデル氏の立候補を止めさせようと画策している。彼らこそ、「法の支配」を否定するご都合主義者だといわざるをえない。

ネパール・メディアは、欠席した2/3以上の議員たちに対し、なぜ欠席したか、当日何をしていたか、を取材し克明に報道すべきだ。そうすれば、悪いのはポウデル氏ではなく、「国民代表」の重責を放棄し恬として恥じない欠席議員たちだということが、一目瞭然となるだろう。

2. 教訓を垂れるアメリカ

このネパールのドタバタ政治をチャンスとみているのが、民主主義の老家アメリカ。下図をみていただきたい。首相選 11 回目失敗記事のとなり、無然たる表情のポウデル候補の写真の横に、アメリカ国務省の民主主義宣伝広告「By the People」が出ている。

ここをクリックしHPを開くと、国務省がまるで慈父のように優しく、また時には厳しく、「君たちはまだまだ子供だね」「民主主義はこのようにやるのだよ」と、語りかけてくる（ように感じられる）。

アメリカはたしかに民主主義の国であり、その善意は疑わないが、そのアメリカ民主主義が過去には先住民(インディアン)を大虐殺し、現代ですら国際法違反のアフガン戦争を戦っていること、あるいは某機関が世界中で法を無視し暗躍していることを忘れてはならない。

ネパール民主主義には、アメリカ民主主義とは異なり、非民主主義の長く豊かな歴史と伝統がある一方、虐殺し奪い尽くしてよい先住民や拉致し強制労働させてよい奴隷はいないのだ。その根本的な相違を無視し、アメリカン・デモクラシーを無邪気に押しつけられても困る。

「By the People」——その"the People"をアメリカはどのようにして形成してきたのか？ どのようにして今それを維持しているのか？ アメリカがネパールに民主主義の教訓を垂れるのなら、アメリカ「国民」の過去と現在を正直に語るべきだろう。



11回惨敗ポウデル候補と米民主主義宣伝広告



上記宣伝をクリックすると、アメリカ政府公報。

作成者: Tanigawa

2010/10/08 21:45

カテゴリー: [民主主義](#)

首相選10回目も失敗，次は7日午後

谷川昌幸(C)

6日実施の10回目首相選挙でも，首相は選出できなかった。立候補はkongressのラムチャンドラ・ポウデル氏のみ。マオイスト，UML，マデシ諸党は欠席。次回は，7日午後の予定。

■ポウデル：賛成109，反対1，棄権46，出席議員総数156。立法(制憲)議会定員601。

これはスゴイことになってきた。首相選挙なのに出席は議員総数のわずか1/4。それでも6日に引き続き7日も首相選挙をやる。確認してはいないが，首相選挙11回はおそらくダントツの世界新記録であろう。

しかし，これは決して反民主主義的なことではない。むしろ逆である。専制支配と異なり，民主主義は手間暇がかかる。各党が国民の前で自己の主張をトコトン貫き，ドタバタ騒ぎを繰り広げ，だんだんバカバカしくなり，自省もして，もうや～めた，となったとき，政治的妥協が成立する。イギリスの無制限演説，日本の牛歩作戦がそのお手本だ。

ネパールの首相選挙10回は，その民主主義の歴史に輝かしい新記録を追加した。これこそネパールが世界に誇る「包摂完全民主主義」なのだ。「完全」だから，トコトンやるしかないし，やるべきだ。

幸い，議会で新首相が選出されなくても，マダブクマール・ネパール暫定首相は，そこそこうまく統治を維持している。大統領もちゃんとやっている。内戦よりはるかにました。

この絶好のチャンスを利用して，ネパールの人々は，民主主義がいかにくだらないか，包摂参加・権力分有がいかに難しいか，「完全」民主主義なんか夢のまた夢，ということをしつくり学習すべきだ。それらは欧米民主主義屋の宣伝文句にすぎない。その上で，それでも民主主義を選択せざるをえないと覚悟したとき，ネパールの民主主義は地に着いたものになっていく。

その観点から，遺憾千万なのが，マスコミ。最近では，首相選挙をバカにし，ほとんど報道しない。これは職務放棄である。政党や議員たちがバカバカしいことをやっているのは事実だが，民主主義においては，そうしたドタバタ交渉を通

して、政治的合意が徐々に形成されていくのだ。

マスコミには、その合意形成のためのドタバタ交渉の状況を正確に伝える義務がある。もしマスコミがそれをバカにし、報道しなければ、国民は議会で何が行われているか分からないし、議員たちも自分たちの行動を映し見る姿見を持たないことになる。マスコミが報道しなければ、ドタバタ交渉は密室の談合になり、民主主義を破壊してしまう。

いま試されているのは、議員というよりは、メディアである。首相選挙の詳細をきちんと伝えることにより、メディアは民主主義のバカバカしさを国民と議員に悟らせ、そうすることによってはじめて、ネパール民主主義の成熟に貢献する。いま批判されるべきは、民主主義のバカバカしさをバカにし忍耐強く報道しようとしめないメディアの方である。



カトマンズポスト10月7日1面

作成者: Tanigawa
2010/10/07 12:25

カテゴリー: [民主主義](#)

中国のネパール介入拡大

谷川昌幸(C)

1. 投票箱没収

チベット亡命政府の首相を選ぶ予備選挙が10月3日世界中で実施されたが、ネパールでは、内務省が警官を3カ所の投票所（ボーダ、スワヤンブー、ジャワラケル）に出動させ、投票用紙入りの投票箱を没収、選挙を止めさせた。

内務省は、この選挙は政府の「一つの中国」支持政策に反しており、違法だと説明した。しかし、当初、黙認されていたにもかかわらず、選挙が始まってから中止させたのは、ICT（国際チベットキャンペーン）がいうように、おそらく中

国大使館がネパール内務省に介入を要請したからであろう。

では、没収された投票箱はどうなるか？ Yahoo=IANSによると、投票用紙には投票者を特定できる記載があった。しかも、ネパール政府は最近、中国と情報協定を結び、それによりネパールでの「反中国」活動情報は中国側にも提供しなければならない。もしこの協定により、投票者情報が中国側に提供されれば、たいへんなことになる。投票したチベット人は気が気でないだろう。

在ネパール・チベット人有権者は、約2万人、カトマンズ地区は約9千人とされている。

2. ムスタン支援

こうした強面介入の一方、中国政府は戦略的地域への援助というソフト介入も拡大している。たとえば、ムスタン援助

- ・ 6百万ルピー（720万円）相当の米、塩、砂糖の援助
- ・ タクルン前期中学校への2百万ルピー（240万円）援助
- ・ ディビヤデーブ後期中学校校舎建設援助。中国政府使節が3月中旬、現地訪問、建設資金として現金570万ルピー（684万円）を手渡す。10月5日、中国大使が現地を訪れ、開講式挙行。

ムスタンはチベット国境沿いであり、ここには最近、インド政府も介入を始めたいらしい。それをにらみながらの援助拡大ということであろう。それにしても、報道が事実なら、現金570万ルピー（1000ルピー札5700枚）の手渡しというのはスゴイ。これこそ、まさしく外交である。



作成者: Tanigawa
2010/10/06 14:48

カテゴリー: [外交](#)

MSブログ廃止、次はホットメールか？

谷川昌幸(C)

マイクロソフトがブログ廃止を発表した。義理はないが、当初から使用してきたので、顧客無視の一方的廃止に驚き、あきれ、腹を立てている。これがマイクロソフト帝国主義であり、英語帝国主義と同様、まことに始末が悪い。

MSブログの廃止については、アクセス履歴閲覧廃止の段階で「これはブログ廃止の前兆だ」と指摘した。MS内ではもっと早くから廃止方針が決定されていたはずだ。だったら、少なくともアクセス履歴閲覧廃止の段階で、正直にそう説明すればよい。

ところが、その説明が禁じられていたらしく、担当者は、ウソみえみえの不誠実な回答に終始した。みな苦しかったであろう。自己嫌悪に陥っていたに違いない。自社従業員に心にもない官僚答弁を強制し、顧客に不誠実を強く印象づけた。MSは官僚主義にむしばまれている。

2010/06/12 [ブログ引越を検討中](#)

2010/06/11 [死者との同居：Windows Liveの恐怖](#)

2010/06/10 [Windows Live 炎上](#)

2010/06/10 [窓だらけWindows Live](#)

MSのブログ廃止理由は傑作だ――

「ブログを WordPress.com にアップグレードしてください

多機能のブログを使用したいという多くのご要望にお応えし、このたび、世界有数のブログ サービスを提供する WordPress.com とパートナーシップを結び、Windows Live Spaces を無料でアップグレードできるようになりました。Windows Live ユーザーの皆様は、今後 WordPress.com の高機能なブログ サービスをご利用いただけます。

アップグレードは簡単で、すぐに完了します - ブログの記事、写真、およびコメントが移行されます。古いリンクも引き続き使用できるため、ブログの読者は今までのリンクを使用してお客様のブログにアクセスできます。」

MSは、アクセス履歴閲覧というブログの基本機能を自分で廃止しておきながら、「多機能のブログを使用したいという多くの要望」を口実に、ユーザーの蓄積した膨大な情報をWordPressに売り渡すことにしたらしい。マッチポンプで金儲けをする。感動的帝国主義商法。独善の見本だ。

しかも、この説明にはウソがある。「アップグレードは簡単」だという。MSのMetha氏も、「今すぐ移行することができないユーザーは、自分のブログコンテンツをダウンロードして、後で移行するか、Spaceを削除することもできる」と述べている。しかし、移行前段階の既存ブログのダウンロードが、MS側の不具合で、できない(できる場合もある)。世界中のユーザーが怒り狂っている。なんで、こんな基本的なことすら確認せず、一方的に強行するのか？ MSはもうダメだな。

次の廃止は、おそらくホットメールだろう。これも昔から使用しているが、信じがたいほど使い勝手が悪くなってきた。どうしてこんな妙竹林なものになってしまったのだろうか？ わけが分からない。ホットメールもいずれ廃止であろう。

マイクロソフト製品は、OSもオフィスもずいぶん高い。もはや限界だ。もうしばらくすれば、MS製品なしでパソコンが使用できるようになるに違いない。

■ <http://nepalreview.wordpress.com/> (とりあえずWordPress.comにアドレス確保)

■ MSスペースはまだ多機能宣伝中

Windows Live
スペース(ブログ) 入門ガイド

- 無料でブログを作成できる!
- ケータイからも利用できる!
- 自分専用のカスタマイズできる!

スペース(ブログ) トップ

Windows Live スペースは、フォトアルバムやコミュニケーション機能が充実した無料ブログサービスです。

今すぐ試してみる

Windows Live スペース(ブログ) でできること

表現豊かなブログを簡単に作成

大量のフォトアルバムに保存した写真をスライドショー形式で貼り付けたり、ガジェットを使ってカスタマイズしたりと、表現豊かなブログを簡単に作成することができます。パソコンだけでなく、ケータイからもブログ記事の閲覧、投稿ができます。

(2010.10.3)

作成者: Tanigawa

2010/10/02 11:48

カテゴリー: [情報 IT](#)

第9回首相選挙も失敗

谷川昌幸(C)

9月30日、第9回首相選挙が行われ、候補は kongress のポウデル氏ただ一人であったにもかかわらず、過半数に遙かに及ばず、首相には選出されなかった。

■ポウデル候補： 賛成 105、反対 2、中立 61、出席議員総数 168、議員定数 601

首相選だというのに、出席議員は総定員のわずか 28%。世界のどこに、こんな悲惨な「民主主義」国があるのか？これが「完全民主主義」を国是とする国なのだ。

首相選失敗云々以前に、立法(制憲)議会の正統性そのものが危うくなりつつある。

次の第10回首相選は、10月6日(水)

作成者: Tanigawa
2010/10/01 09:57

カテゴリー: [政治](#)

Hello world!

これがマイクロソフト帝国主義のやり方だ。どう抵抗するか？ 英語帝国主義と同様、これは難しい。まあ、利用しつつ、考えていくことにしよう。

ネパール評論 <http://nepalreview.spaces.live.com/>

(補足)ホットメールも廃止ではないか？ 信じがたいほど不便。どうしてこんな事になるのか？ わけが分からない。

Windows Live Spaces が生まれ変わります

お客様のご要望にお応えし、最も快適なブログ サービスを実現するために、Windows Live Spaces は WordPress.com と連携してご提供することになりました。WordPress.com は、設定が簡単で使いやすく、カスタマイズと管理のための便利なオプションが満載です。

Spaces でお気に入りのブログを展開している場合は、簡単な操作でそのブログを WordPress.com へ移動できますが、ブログをダウンロードまたは削除することもできます。何もしない場合は、2011年3月16日に、スペース全体が自動的に削除されます。

現在のブログはどうすればよいですか？

Spaces 上のブログ コンテンツの扱いは、お客様がお決めください。次のような対応が可能です。

- [ブログを WordPress.com へ移動する](#)
- [ブログのコピーをダウンロードして後で決める](#)
- [ブログを削除する](#)

ブログの扱いを決定する前にその内容を確認するには、[自分のスペースに移動してサインイン](#)してください。2011年3月16日までにお決めくだされば結構です。

いつまでに決めればよいですか？

Spaces の WordPress.com への移行に伴い、お客様にご注意いただきたい重要な日付は、次のとおりです。

2010年9月30日

- Spaces ブログにまだ書き込みができます。
- ブログを移動、ダウンロード、または削除できます。

2011年1月4日

- Spaces ブログへの書き込みはできなくなりますが、表示はできます。
- ブログを移動、ダウンロード、または削除できます。

2011年3月16日

- 何もしない場合は、スペース全体が自動的に削除され、アクセスできなくなります

作成者: Tanigawa
2010/10/01 02:42

カテゴリー: [その他](#)